

令和8年度第1回県北広域振興圏地域運営懇談会

日時：令和8年7月29日（水）10：00～12：00

場所：久慈地区合同庁舎 6階 大会議室

1 開会

【高橋副局長】

皆様お疲れ様でございます。定刻となりましたので、ただいまから令和8年度第1回県北広域振興圏地域運営懇談会を始めさせていただきます。

私は本日の進行を務めさせていただきます、県北広域振興局副局長の高橋でございます。どうぞよろしくお願いいたします。以降、着座にて進行を務めさせていただきます。

それでは初めに、県北広域振興局米内局長から御挨拶を申し上げます。

2 挨拶

【米内局長】

県北広域振興局長の米内でございます。本日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。

この懇談会は県北圏域における将来計画や施策方針を地域の皆様と共同で協議するため、年2回開催しているものでございます。昨年度末の任期満了に伴いまして、引き続き3名の方々に、それから新たに12名の方々に構成員に御就任をいただいております。改めまして、構成員就任に御承諾いただきましたことを御礼申し上げます。ありがとうございます。

さて、県では、「いわて県民計画」第2期アクションプランにおいて、人口の「自然減・社会減対策」を主軸に、脱炭素と成長の両立を目指す「GX グリーン・トランスフォーメーションの推進」と、情報通信技術の力を生かす「DX デジタル・トランスフォーメーションの推進」を両翼として、さらに「安全・安心な地域づくり」を基盤とする4つの重点項目を掲げ、市町村や関係団体等と連携しながら一体的に取り組を進めております。

振興局といたしましても、地域の皆様の現状に寄り添いながら、地域産業の担い手の確保や、移住・定住の促進、女性活躍・子育ての支援などを着実に推進するとともに、「三陸ジオパーク」、「みちのく潮風トレイル」、「御所野遺跡」、「奥南部の漆」など、県北地域の豊かな資源を効果的に活用し、交流人口の拡大、地域に根差した産業振興、地域の活性化に全力で取り組んでまいりますので、引き続き、御支援と御協力をお願いいたします。

また、今年度は、いわて県民計画（2019～2028）の終期を見据え、第1期、2019年度から2022年度までの4年間、それからその後の第2期アクションプラン、2023年度から2026年度になりますが、この評価結果や、東日本大震災津波からの復興の進捗、人口減少の進行など、社会経済情勢の変化を踏まえまして、残り2年となります。令和9年度から10年度までの2年間、2027年度から2028年度の2年間を計画期間とする第3期アクションプランを

策定することとしております。

本日は、今年度の県北広域振興局の主な取組、新たな地域振興プラン策定に向けた考え方などについて御説明をさせていただいた後に、皆様と意見交換を行うこととしております。

限られた時間ではございますが、皆様には、県北圏域の活性化、そして未来に向けて、忌憚のない御意見を頂戴できれば幸いです。

それでは皆様どうぞよろしくお願いいたします。

【高橋副局長】

続きまして今年度から御就任いただいております構成員の皆様につきまして、お手元の名簿に従い、私の方から御紹介をさせていただきます。

荒谷果樹園 代表 荒谷 直大様。本日は御欠席でございます。

株式会社岩本電機 代表取締役社長 岩本 崇司様。

【岩本構成員】

よろしくお願いいたします。

【高橋副局長】

薄井食品 代表、二戸市商工会青年部 部長 薄井 大輔様。本日はリモートでの御出席でございます。

【薄井構成員】

よろしくお願いいたします。

【高橋副局長】

まるこパン工房コパン 大村 友美子様。本日は御欠席でございます。

癒し家ぬつくまる 代表、ふだい荒磯太鼓 副会長 小野寺 はるか様。本日は御欠席でございます。

社会福祉法人一戸町社会福祉協議会 社会福祉士 小野寺 幸葉様。

【小野寺構成員】

よろしくお願いいたします。

【高橋副局長】

九戸村食生活改善推進員協議会 会長 桂川 祥子様。

【桂川構成員】

よろしくお願いいたします。

【高橋副局長】

株式会社ヤマイチ リフォーム課 主任 佐々木 寿文様。

【佐々木構成員】

よろしくお願いいたします。

【高橋副局長】

坂松農園 マネージャー 滝野 遼様。本日は御欠席でございます。

【高橋副局長】

野田村森林組合 業務課長 新山 聖也様。

【新山構成員】

よろしくお願いいたします。

【高橋副局長】

一般社団法人二戸市観光ツーリズム協会 事務局長 橋本 敦子様。本日は御欠席でございます。

一般社団法人久慈市観光物産協会 事務局次長 廣内 留美様。本日は御欠席でございます。

株式会社二戸ファッションセンター 代表取締役 蒔苗 彰様。

【蒔苗構成員】

よろしくお願いいたします。

【高橋副局長】

南侍浜漁業研究会 舩森 清様。

【舩森構成員】

よろしくお願いいたします。

【高橋副局長】

社会福祉法人洋野町社会福祉協議会 主任兼生活支援コーディネーター 村上 由希子

様。

【村上構成員】

よろしくお願いいたします。

【高橋副局長】

以上 15 名の皆様となります。

続いて県の出席者を御紹介いたします。

県北広域振興局長 米内 靖士でございます。

【米内局長】

米内です。よろしくお願いいたします。

【高橋副局長】

副局長 二戸市駐在 伊五澤 敬でございます。

【伊五澤副局長】

伊五澤です。よろしくお願いいたします。

【高橋副局長】

改めまして、私は副局長兼経営企画部長を務めております高橋 利典です。どうぞよろしくお願いいたします。

その他各部室長の出席者につきましては、お手元の名簿で御確認いただければと思います。

それでは議事に入る前に、配付資料の確認をさせていただきます。

本日は机上に座席表と、地域運営懇談会設置要綱をお配りしております。

また、次第の下箱囲みに記載している資料につきましては、事前に郵送させていただいておりますが、参考資料 2 につきましては、差替版を本日机上にお配りしております。不足の資料がございましたら事務局までお知らせ願います。皆様、よろしいでしょうか。

それでは次第 3 議題に入らせていただきます。

地域運営懇談会設置要綱第 4 の規定によりまして、運営懇談会は局長が主宰することとされておりますので、以降の進行につきましては、米内局長が務めます。

3 議題

【米内局長】

それではここからは私が進行させていただきます。

まず本日の進め方についてでございますが、議題の「令和８年度県北広域振興局の主な取組」及び「いわて県民計画（２０１９～２０２８）第３期アクションプラン―地域振興プラン（県北広域振興圏）の策定について」を事務局から一括で説明をした後に、皆様からお一人３分程度で名簿順に御発言をいただきまして、全員に一通り御発言いただきましたならば、再度、改めて御意見等のある方に御発言をしていただきたいと思います。そういう流れで進めさせていただきますと思いますのでよろしくお願いいたします。

それでは早速議事に入ります。「令和８年度県北広域振興局の主な取組」及び「いわて県民計画（２０１９～２０２８）第３期アクションプラン―地域振興プラン（県北広域振興圏）の策定について」事務局から説明をお願いします。

【木登経営企画室長】

経営企画室長の木登でございます。それでは私の方から令和８年度県北広域振興局の主な取組等について説明させていただきます。着座にて失礼いたします。

それでは資料１の１ページ目を御覧願います。

１ページ目の左側上段に、令和８年度における重点化の視点をお示ししております。まず前提としまして、県北地域では全国平均を上回る速度で人口減少が進行しており、特に進学・就職期における若者や女性の県外転出が大きな課題となっております。その背景には、地域に根強く存在する「遅れている」「何もない」といった否定的な自己認識であったり、地方における無意識の思い込みの影響もあると思われまして、若者・女性が地元の可能性を見出しにくくなることにつながっているところでございます。

このことから、１点目でございますが、県北局では、多様な産業分野において、業界特有の文化や慣習に起因するジェンダーギャップ等の解消を目指し、人口減少対策を重層的に展開いたします。２点目ですが、事業の実施にあたっては、本庁事業との相乗効果が発揮できるよう、小規模町村などの地域事情を考慮しながら、ワンチームで人口減少対策に取り組んでまいります。３点目でございます。昨年１１月、久慈市で開催されました、いわてネクストジェネレーションフォーラムのレガシーを引継ぐ取組でございます。県北局では、ネクジェネで芽が出た若い世代が継続して活躍できる環境づくりを進めながら、就職や結婚・子育てなどのライフステージに応じた支援を強化してまいります。

次に、右側を御覧願います。県北局の重点課題でございます。

１つ目が人口減少対策の強化推進です。若者・女性に選ばれる地域づくりに向けて、若者・女性が主体的に行う取組の支援を基軸とした施策を重層的に展開してまいります。

２つ目が地域振興プランの推進です。地域振興施策の３つの基本方向と１４の重点施策項目による取組を推進します。特に取り組む事項としましては、１つ目が「白銀のひかり」の生産振興及び認知度向上でございます。昨年度から販売が開始されたところですが、栽培面積の拡大と安定した品質、収量の確保が課題となっており、重点的な栽培指導や栽培研究会の活動支援に取り組むとともに、地域内での認知度向上を図るため、ＳＮＳを使った情報

発信の強化や、学校給食等への提供を継続してまいります。2つ目は、漁村の交流人口の拡大、収益化の取組です。久慈広域での「海業」の取組の展開を継続実施することとしており、令和8年度には、特に地域コーディネーターの育成に取り組んでまいります。

次に2ページをお願いいたします。2ページ以降では人口減少対策を中心に、局の特徴的な取組を具体的な取組内容の欄で御説明いたします。

まず初めに、少子化対策の柱の1つである女性活躍応援についてでございます。県北局ではアンコンシャス・バイアス、ジェンダーギャップの解消の取組を強力に推進するため、若手・女性職員を中心とした局横断型の人口減少対策プロジェクトチームを今年3月に立ち上げたところです。プロジェクトの推進にあたっては、農林水産業等の一次産業を担当するチーム、製造業や建設業等の二次産業を担当するチーム、そして若者・女性活躍を担当するチームという3つのワーキンググループを組織し、分野ごとに取組を進めております。具体的な内容としましては、地域社会におけるジェンダーギャップ等の課題を産業分野ごとに可視化するため、アンコンシャス・バイアスへの気づきをテーマとしたセミナーや、各業界の若手・女性従業員を構成メンバーとしたワークショップを開催するとともに、可視化された課題の改善方策を検討してまいります。先日7月15日と21日にセミナーと第1回目のワークショップを開催したところであり、地域や職場におけるアンコンシャス・バイアスについて理解を深めるとともに、日頃感じている違和感や気になっていることを共有するなど、取組の方向性を確認したところでございます。今後、産業分野ごとのワークショップを重ね、業界特有の課題を可視化するとともに、改善の方向性を検討していく予定でございます。そして、このワークショップで可視化された課題を地域のリーダーや企業の経営層と共有し、地域で若者や女性が活躍できるフィールドづくりを考えることを目的として、「北いわてトップリーダーズ・アクションフォーラム」を来年3月に開催を予定しております。

次に3ページをお願いいたします。若者・女性の交流や挑戦を支える地域ネットワーク「NEXT ROOTS」についてでございます。この取組は重点化の視点でも簡単に触れたところでございますが、久慈市で行われた「いわてネクストジェネレーションフォーラム」というものがありまして、この取組を継承・発展させるというものでございます。ネクジェネでは、若者による未来を描くワークショップや、それを深掘りするパネルディスカッションなどを通じて、地域の未来を若者と大人が一緒に考える機会の創出になったところでございます。その中で、大人が当事者意識を持つ必要性、変わろうとする大人がいる地域、これが若者に選ばれるということ。そして、若者と地域の間に立ち、支援する大人や組織、こういったものを意図的に仕組みとして作ることが大切であるというヒントを得たところでございます。この「NEXT ROOTS」ですけれども、ネクジェネの活動の中で中心となり、大会メッセージをまとめた若者を核とした、若者による若者のための支援組織でございます。県北局ではこういった仕組みづくりを育てることにより、若者・女性に選ばれる地域づくりに官民一体となって取り組んでまいりたいと思います。

次に4ページをお願いいたします。出会い、結婚支援の取組でございます。若者が集まる

「Re フレッシュャーズミーティング」などの枠組みを生かし、ゆるやかな形での交流機会の創出を図ってまいります。

次に5ページでございます。キャリア教育の充実とマッチング支援の取組としまして、久慈地域4市町村が中学生向けに実施するキャリア教育の取組を、地経費の広域連携枠で支援してまいります。

次に6ページをお願いいたします。広域的な移住定住の取組として、県と市町村で構成する「県北地域移住定住推進プロジェクトチーム」において、首都圏在住の若い世代をターゲットに、リアルな暮らしを想起させるツアーを継続実施するとともに、ツアー終了後も定期的に北いわての情報をお知らせするなど、北いわての関係人口になっていただくようフォローを行ってまいります。

次に7ページをお願いいたします。広域周遊観光と隣接圏域との交流促進の取組としまして、令和6年度から実施している、地域資源とアクティビティを組み合わせたアドベンチャーツーリズムの取組を継続し、旅行会社への商品化提案や、八戸圏域からの誘客などに取り組んでまいります。また、世界遺産登録から5周年を迎える「御所野縄文遺跡」を一戸町と協力して盛り上げるための取組を推進してまいります。

次に8ページをお願いいたします。北いわてお城コンシェルジュをお願いしております「久保井朝美さん」の知名度を生かし、八戸圏域も含めた地域の歴史・文化資源の情報発信を行ってまいります。みちのく潮風トレイルを活用した周遊観光の推進につきましては、トレイルに関するすそ野の拡大や外国人を含む観光客へのおもてなしを地域に広げてまいります。

次に9ページをお願いいたします。9ページからは地域振興プランの取組でございます。

自殺対策の推進としては、高齢者男性をターゲットとした「こころとからだの健康づくり講座」を実施いたします。

次に10ページをお願いいたします。減災のためのソフト施策として、水門やダムなどのインフラにふれるイベントを実施するなど、防災・減災インフラの理解促進を図ります。また、再生可能エネルギーを生かした地域づくりの取組としては、地域の若者や女性の地元定着等を促すため、県北地域の再エネ関連産業の魅力を発信するなど、地元への愛着の醸成と理解の深化を図ってまいります。

12ページをお願いいたします。環境との調和がとれた生産体制の構築としまして、交付金等を活用した集落ぐるみの被害対策を支援するなど、鳥獣被害防止対策を推進してまいります。また、ふるさと振興部県北・沿岸振興室と連携し、バイオ炭を施用する実証農地の拡大を図ってまいります。

13ページをお願いいたします。特用林産物の生産・流通体制の強化ですが、岩手木炭や乾しいたけの認知度向上や消費拡大イベント等での販売促進に取り組んでまいります。

14ページをお願いいたします。水産業でございます。新たな担い手の確保・育成として、アカデミー修了生等を講師として、小中高生向けの漁業体験や就業ガイダンスを実施いた

します。また、中核的漁業経営体の育成として、優良経営モデルの導入に向けたセミナーを開催いたします。

次に 15 ページをお願いいたします。北いわての食材の認知度向上・取引拡大として、黄金の國いわて応援の店などのバイヤーやシェフを対象とした産地見学会を実施いたします。また、特色あるものづくり産業の振興として、ふるさと振興部県北・沿岸振興室と連携し、事業者の生成 AI 導入の活用や促進を図ってまいります。

次に 17 ページをお願いいたします。ツキノワグマ対策でございます。ツキノワグマ地区管理協議会を開催するなど、市町村の不安を解消すべく、伴走支援を行ってまいります。

県北広域振興局の令和 8 年度の主な取組についての説明は以上となります。

引き続き、いわて県民計画第 3 期アクションプラン策定についての説明をいたします。

資料 2 の 2 ページを御覧願います。県では今年度、いわて県民計画の終期を見据え、第 1 期及び第 2 期までのアクションプランの評価結果や、人口減少など社会経済情勢の変化を踏まえ、第 3 期アクションプランを策定することとしております。

3 ページを御覧願います。まず、いわて県民計画の構成でございますが、計画期間を 2019 年度から 2028 年度までの 10 年間とする長期ビジョンというものがございます。その長期ビジョンの実効性を確保するため、重点的・優先的に取り組むべき政策や具体的な推進方を盛り込むものとして、アクションプランがございます。そのアクションプランには、復興推進プラン、政策推進プラン、地域振興プラン、行政経営プランの 4 つがございまして、その中で地域振興プランはさらに、県央、県南、沿岸、県北という 4 つの広域振興圏ごとに作成しており、これに基づき地域振興に取り組んでいるところでございます。今回、県北広域振興局では、県北広域振興圏の地域振興プラン策定に当たり、構成員の皆様から御意見を伺い、プラン策定の参考とさせていただきたいと考えているところでございます。

次に 6 ページをお願いいたします。地域振興プランの構成でございます。県北広域振興圏の目指す姿の実現のため設定した長期ビジョンの取組方向に基づき、ⅠからⅢの 3 つの「振興施策の基本方向」と、特に重点的に取り組む 14 の「重点施策項目」を設定し、取組を進めているところです。

1 つ目の基本方向であります「Ⅰ 隣接する圏域等とのつながりを生かし、一人ひとりが健康で心豊かに暮らせる地域」におきましては、多様な交流・連携による地域コミュニティの活性化や、文化・スポーツによる地域活性化、そして地域における医療体制、地域で支え合う福祉の環境づくりに取り組んでいるところでございます。また、「Ⅱ 自然豊かで再生可能エネルギーを生かした災害に強い地域」では、災害に強い社会基盤の整備、新しい交通ネットワークの活用、環境を守り育てる人材育成のほか、再生可能エネルギーを生かした持続可能な地域づくりに取り組んでいるところでございます。次に「Ⅲ 誇れる北いわての地域資源を生かした産業が展開し、意欲を持って働ける地域」では、北いわての農畜産物のブランドの確立をはじめ、地域材や特産林産物の生産体制の強化と需要拡大、担い手の確保・育成や漁業生産量の回復・向上、そして食産業やアパレル産業の振興に加え、広域観光の推進、

雇用環境の改善と若年者などの就業支援に取り組んでいるところでございます。

以上のような取組を進める中で、第3期に向けた重点化の方向性としまして、御所野遺跡やみちのく潮風トレイルなどの観光資源、ブランド米「白銀のひかり」などの強みを生かすことや、人口減少対策や若者・女性活躍支援などは取組の底上げを図る必要があるのではないかと考えているところでございます。

そして最後に7ページを御覧願います。主に構成員の皆様から伺いたい事項はこちらの4点となります。①今後2年間で重点的に伸ばすべき県北の強みは何か、②若者・女性に選ばれる地域となるために必要な取組は何か、③人口減少対策として優先すべき施策・取組は何か、④地域の持続可能性確保のために重視すべき課題は何か、というようなことでございます。

本日皆様から伺った御意見は、今後の第3期地域振興プランの内容を検討する上で、大変貴重なものと考えております。明確な正解があるものではなく、お答えいただくのはなかなか難しいものも多数あると存じますが、皆様が日頃の活動や地域との関わりの中で感じておられるところや、将来に向けて期待することなど、忌憚のない御意見を聞かせていただければと思っております。

県北局からの説明は以上でございます。

【米内局長】

ありがとうございました。それでは早速意見交換に入りたいと思います。

構成員の皆様から順次御発言をしていただきたいと思います。本日は、今説明しました県の重要政策である人口減少対策など、局の施策推進方針と、いわて県民計画第3期アクションプラン策定について、この2点についての所感、御意見、御提言などを、短時間で恐縮でございますけれども、一旦、お一人3分程度で御発言をお願いしたいと思います。一巡しましたらまた改めて、御発言のある方には御発言をお願いしたいと思います。

それでは岩本様からお願いいたします。

【岩本構成員】

皆さんお疲れ様でございます。洋野町種市で電子部品のバイヤーサービスをさせていただいております、岩本電機の岩本と申します。日頃より大変お世話になっておりまして、ありがとうございます。

私の方からは、最初から御説明いただいた中で、電子部品関係、いわゆる製造業の取組というのは、どこを見たほうがいいのかというところです。何ページのどこが電子部品関係に当てはまっているというものがあれば、教えてもらいたいと思います。様々すばらしい事業をやられている中で、弊社で電子部品の製造をしているんですけど、それに関連した事業というのはどこなのかといったところを教えてもらいたいと思います。

それから人口減少対策というのが命題なのかなと思っているんですけど、これは岩手県

のみならずで、全国の問題になっていると思うんです。なので、何をしなければいけないのかっていったら、人口が減るスピードを緩やかにすることと、減っても地域が維持する、この両方を目指さなきゃいけないのかなと思っています。そのためには、やはり若者の県外への流出、あとは出生数の減少が最重要課題なのかなと思っている中で、私が特に必要だと考えるのは、やはり若者が働ける産業を増やすというところが一番、重点的なのかなと思います。いろいろあると思うんですよね。今まで御説明いただいたように、子育てしやすい環境づくりとか、Uターン・Iターンとか、暮らしやすい地域づくりってあると思うんですけども、私としては特に仕事、例えば所得が重要なのかなと思います。今御説明していただいた中で、もう少しもっと的を絞ってもいいのかなと。私は若者が働ける産業を増やすといったところが重要なかなと思っています。若者が岩手県もしくは県北の地域で、希望する仕事があって、十分な収入を得られると感じていけば、もちろん結婚・子育て、定住に繋がるのかな、より大きい効果が得られるんじゃないかなと。住みたいだけでなく働きたい、将来的にここで暮らしたいというような施策、若者が働ける産業を増やすといったところに的を絞ってみるといいのかなと思います。あれもこれもやるのはもちろん重要だと思うんですけども、そこが1つかなと思います。

お願い事項としては、やはりその中でも人口減少が緩やかな市町村って数字的に表れてあると思うんですよ、日本全国の中で。そこの取組を視察に行かれたりですとか、またその代表される方をこの地域に呼んで、どのような人口減少対策をされているのかっていうのを勉強というか、講演をいただくと、またちょっと違う視点が見られるのかなと思います。県を飛び越えて全国で、その緩やかな減少になっているところの方のお話を聞いたりするのがいいのかなと思いますので、ぜひ次のこの懇談会の中で、下期はこういうことを盛り込んでやりましたよっていうのを期待したいなと思います。

【米内局長】

ありがとうございました。

御質問がございました電子部品関連の取組については、経営企画室長から説明します。

【木登経営企画室長】

直接の言葉では落としていないんですけども、資料1の15ページに「県北地域のものづくり産業」という項目がございます。

【岩本構成員】

ありがとうございます。例えばですけども、農業、林業、水産業、食産業、観光業、いろいろ御説明があった中で、やはり少ないんですよ。なので、私も県北のものづくり産業ネットワークに所属していろんな活動をさせていただく中で、もう少し電子部品関係の具体的な取組というか、持っていただけるといいのかなと思います。

【米内局長】

ありがとうございました。御意見いただきましたので、今後の施策の参考にして進めたいと思います。

それから御意見がございました、若者が働ける産業を増やすというところで、これは我々もそう思っていて、やはり所得を見て就職される地域とか職種を決められていると思いますので、そこはこれからも重要な課題ですので、御意見を踏まえて、我々も従前からその辺は考えているところですけども、皆様とも連携しながらさらに進めたいと思いますし、最後に御意見がございました全国で人口減少のスピードが緩やかになっている市町村については、ちょっと調べてみまして、こういう場での、例えば基調講演とか、そういうところで活用できるものがあるか、今後調べてみたいと思います。ありがとうございました。

それでは続きまして薄井様、お願いいたします。

【薄井構成員】

二戸市で豆腐製造業をやっております薄井と申します。よろしくお願いいたします。
まずお話を聞いた上で、今後強く取り組んでいくべきところというのが、災害に強い県北であるというところで、地震や豪雨はありますけれども、それに対応してしっかりしているなと思っているので、今のところ大きい被害はないなというところですので、もっとそういったところをアピールして、安心して住める地域だということを進めてよいのかなと思いますし、あと鳥獣被害、クマ対策もしっかり行ってですね、クマがあまり出ない地域と言われるような計画を行っていけばより安心して住める地域になり、比較的目的が当たってくるのかなと思います。目に見えて今実績が伸びているところをブラッシュアップしていくということが大切になってくるんじゃないかなと。岩本さんが仰っていたように、あれもこれもというよりは、目に見えて伸びているところを推し進めていけば、より良いのかなと思います。

あとはU・Iターン、一度出ていった方を県内に戻すということに関しては、地元で商売したいという若手経営者が県外に出ていろいろ学んで、地元で起業したいという方もいるかもしれません。そういった方々を対象とした、若者がチャレンジしやすい県北ならではの特別な支援や補助などがあつたら、より帰ってきやすい、呼び込みやすいのかなと考えました。

あとはいろいろな選択肢が豊富であれば、それはすごく魅力的なことなのかなと思います。私は商工会にも入っていて、いろいろなアイデア、お話を聞くんですけども、やっぱりどうしても賃上げといいましても、その企業でも限界があるということで、そこはしょうがないところもあるんですけども、その分、先ほど申し上げたように、選択肢が豊富、生活環境が整っている、子育て支援が充実している、男性育休取得率が高いとか、あとは福祉の充実、教育の質、県北ならではの自然を利用した産業がたくさんあるというところを前面にアピールして、その分を補えるような環境を作っていけば生活は豊かになるのかな

と思います。

あとはですね、経営理念の2番目の「地域社会を構成するあらゆる主体が、それぞれ主体性を持ち、共に支え合いながら岩手県の将来像を描き、その実現に向けて、みんなで行動していくこと」とありますが、こちらに関しては、比較的できている地域だと私は感じております。二戸市で活動しているという点と、二戸市商工会青年部部長として、北部の商工関係団体の方々と連携して活動していけるという点では、そういったところは県北ならではのコミュニティの強みであるんじゃないかなと考えております。

【米内局長】

一点目が災害に強い地域ということで、二戸地域は特に大きな災害がない地域だと私も思っておりまして、久慈はやはり海があるので津波が心配なところはありますけども、東日本大震災でも比較的被害も少なかったのも、大きなインフラの損害もなく、比較的復旧は早かったと思っています。今後の千島海溝とか、どこで地震が起きるかによって津波の動きも変わりますので、今は将来の千島海溝沖の地震対策として、ハードはほぼ東日本大震災を想定したものは作ってまして、あとはハードだけに頼らずにソフトも含めて逃げるところで、久慈市なんか結構最近地震があつて、津波注意報とか警報が出ますので、そういうときの避難体制っていうのは市町村さんがいろいろ考えていますけども、いろいろ御要望もありまして、県としても一緒に考えて、まず逃げるといふ、順次被害を最小限に抑えるというところは一緒に取り組んでおります。

それからU・Iターンについては、資料1の5ページに、キャリア教育の充実、マッチング支援というのがありまして、特に、将来的なキャリア教育といいますか、久慈地域ですと中学生向けのキャリア教育をしていて、あとは高校にも進めておりまして、実業高校は当然なんですけども、高校を卒業されて就職されるという方も結構いらっしゃる高校なので、さらに進学される人の多い高校、例えば久慈高校にも、進学を止めているわけではなくて、どんどん勉強していただいて外に羽ばたいていただくのは結構なことなので、外で勉強していただいて、大学などを卒業したときに、選択肢の一つとして地元も見えていただくといったところが弱くてですね、中学生とか高校生に地域を知っていただかないと、知らないまま大学生になってしまって、首都圏の方の企業に就職してしまうという傾向があるので、最終的にどこに就職するかは御本人の判断なんですけども、我々としてはその選択肢の一つに、地元の企業さんなども入れていただいて、広く見ていただいた上で就職していただくとか、Uターンするときの受け皿、選択肢として見ていただく、覚えていただくようにするには中学生とか高校生の頃からキャリア教育をしなければいけないということで、取り組んでいるところでございます。経営企画室長から補足はございますか。

【木登経営企画室長】

U・Iターンに関して、局長の方からお話ありましたとおり、キャリア教育というところ

で、出ていく前にしっかりと地域のことを知ってもらおうという取組です。実際今、人口減少がかなり進んでおりまして、私が生まれた 50 年前からすると、出生数が 10 分の 1 という状況でございます。ここ 10 年くらいでまた 6 割ほど減っているというところでございます。そういった中で、高校を卒業してどうするかという進路選択のところ、7 割以上が進学を希望するというのが、この久慈管内の調査でも数字で出てきております。外に出ていくことは全く悪いことではなく、幅広い知識を身につけて、そしてその力をどこで活用するかといったときに、やっぱりこの若いときに地域を知ってもらって、地域課題というものをしっかりと勉強してもらって、そこに生かしたい、生かすために外に出ていくんだという思いを持っていただきたいという思いも込めて、キャリア教育や関連の施策を組み立てていきたいと考えているところでございます。

【米内局長】

あと、若者チャレンジについても経営企画室長から説明をお願いします。

【木登経営企画室長】

若者チャレンジというところでは、昨年、久慈市でネクストジェネレーションフォーラムというものをやったところでございまして、これは何かというと、例えば仙台や東京でいうと、よく仕事が終わってからいろんなサークルがあったり勉強会があったりという形で、いろんなところから声がかかってくるんですが、やっぱりこの県北地域では、心の中では何かしたいと考えている方がいるんですけども、表に出てくるところがないというところと、そういった活動を支えていく仕組みがないというところで、ネクジェネのときに地域をしっかりと楽しめるようなところにしていきたいという若者が出てきて、ネクジェネで発表をしたところでございます。そこで大会メッセージとして、挑戦しやすい地域をつくっていくこと、地元の良さを地元が再認識すべきじゃないかと、そしてそれを共有すべきじゃないかというメッセージがありました。そして、大人も一緒に当事者になり、楽しみながら挑戦していこうというメッセージをまとめたメンバーがおります。そのメンバーを中心に、さらに広げていきたいというところで、今年「NEXT ROOTS」という活動を始めたところです。「NEXT ROOTS」はネクジェネで大会メッセージを発した若者を中心に、さらに地域の方向性を含めていろんな若者を支えていく、夢を見られるような地域にしていく、そういった活動を進めていく取組が今年度、動き出しております。県北局が、こういった若者が若者を支援する仕組みをしっかりと一緒になって支援して、若者が活動できる活躍できる地域をつくっていききたいと考えているところでございます。

【米内局長】

ありがとうございました。それでは続きまして、小野寺様からお願いいたします。

【小野寺幸葉構成員】

一戸町社会福祉協議会の小野寺と申します。今年度から構成員として参加させていただきます。よろしくお願いいたします。

私の方からは、県の重点的な取組事項として挙げられている若者・女性の活躍の機会とか人口減少というものは、福祉の分野でも、また、一戸町においても、重点的に取り組まなければならないこととして認識しているところです。この若者・女性の活躍と人口減少の課題だけじゃなくて、私が生活する上で、働く上で、基本的に考えていることは、やはり行政の施策に頼らないといえますか、今自分の立場で何ができるか、その課題に対して地域の皆さんとどう取り組むかっていうことを念頭に置いて、何事も取り組むようにしているところではありますけれども、今年度から始めたことが、たまたまこの若者・女性の活躍と人口減少に触れることかなと思って、参考までに発言させていただこうと思って今日参りました。

昨年度から、御所野縄文公園で、共生社会を目指したリンクウォークというものを、県の後援をつけていただいて実施している事業があります。社会福祉協議会と一戸町と、あとは地域の皆さんとともに多機関連携で作っているイベントで、リンクウォークっていうのは、障がいのある方も高齢の方も子供も大人も、一人一人が主役になってファッションウォークをするイベントです。自分が好きな服を着て、自分が好きな人と一緒に自分をアピールする、レッドカーペットの上を歩く時間は数分なんですけれども、その数分間の中に自分らしさをアピールしていただいて、一人一人が主役になってもらうイベントをやろうということで、地域共生とか、あとは福祉の魅力アップとか、福祉といえば女性とか若者の活躍の産業になっておりますので、そういったことも強くアピールするために実施しているものです。昨年度は、私の方で様々事業の中身をコーディネートして実施したんですけれども、今年度からその事業を、町内の障がい福祉事業所で働いている若い職員さん、1～3年未満の勤続年数の職員さんとか、10代、20代の職員さんに集まっていたり、あとは障がいだけでなく高齢者分野の介護職の若手の方に集まっていたり、7、8人でしょいか、だいたい9割が女性なんですけれども、高校、専門学校、大学を卒業して、1～3年未満の女性たちに集まっていただきました。その人たちを運営委員にして、このリンクウォークっていう事業を作り上げていこうと思って取り組み始めました。今日の議題にも挙げられている若者・女性の活躍の機会の一つにしたいということと、その人たちの横のつながりを深めて定着していただきたい、住む場所の定着もそうですし、仕事の定着もそうですし、あとはそれがひいては人口減少対策に繋がっていけばいいなという思いで始めました。まだ始めて数ヶ月なので、これから今年度やってみての成果と振り返りが大事なかなとは思っているところですが、もうすでに驚くことがいろいろあって、集まった人たちのほとんどが、町外から一戸に福祉を求めて働きに来た人たちでした。6～7割がそうでした。お隣の青森県とか、あとは県内だけでも、沿岸出身ですとか、あとは県南の方出身の方もたくさんいらっしゃって、でも一戸に住まいを構えて、一戸の福祉産業の一人として、一役を担っていただいている人たちが集まって、仕事の愚痴もちろん出ますけれども、それ以上に、こん

な風にしたらこのイベントがもっと楽しくなるんじゃないかっていう意見もたくさん出して、それを私も敢えて否定せずに、彼女たちのやり方でやってどんな形になるか、1年目見てみようかなという思いで、バックアップしているところです。

こういった取組が、県全体の参考になればなという思いも込めて発言させていただいたのと、また、後援として名前を連ねていただいている岩手県の皆さんにも、どうぞぜひ現地で見ていただいて、一戸のこういう取組をバックアップしていただけることで、今後、このイベントの持続可能性とか、地域の持続可能性につながっていくんじゃないかなと思って、私のコメントとさせていただきたいと思います。

【米内局長】

ありがとうございました。

【伊五澤副局長】

二戸で働いてる伊五澤と申します。

リンクウォーク、私も昨年拝見しました。本当に素晴らしい取組だと思います。地元の縫製業者に作ってもらった服などを障がいのある方が着て、レッドカーペットの上を歩くと。御所野の雰囲気も相まってすごく素敵なファッションショーだと思っております。

薄井さんも仰ってますけども、一戸を含めて、二戸地域は企画力がある人が多く、それを実行する人が多いなという印象がすごく強くあって、そこが強みなので、やっぱりいろいろ連携しながらアピールしていくのが大事なのかなと私は感じているところです。今年度の企画も期待しておりますので、これからもよろしくお願いします。

【米内局長】

それでは続きまして、桂川様からお願いいたします。

【桂川構成員】

私は人間が生きていくための食に関するボランティア団体に所属してまして、資料にもありましたけども、九戸村っていうのは、本当に少子高齢化が進んでいて、もう潰れるんじゃないかなという危機感がある村なんですけども、私たちは高齢者対象で食に関する活動をしていることが多いんですけども、小さい村ですので封建的な考え方が多くて、なかなか若者、少子高齢化に貢献するような人間っていうのかな、そういう人たちが少ないのが悩みの種で、これは私一人でするものじゃない、皆で考えなきゃならないことなんだなとは思っております。毎年100人亡くなれば、3人ぐらいしか出生がないっていうような、本当にもう限界集落になってしまうのかなっていう危機感があると思っています。孫にも言うんですけれども、私一人暮らしなので、九戸に来ないかって言うと、仕事がないからと。仕事がないと生活もできないので、できれば若者が定着できるような企業があれば、少しでも

若い人たちが定着できるのかなと思います。

それから、私たちの村を考えれば、高齢者が多くなっていますので、空き家がすごく多くなってきましたので、空き家対策はしてると思うんですけども、積極的に取り組んでいただけるような事業等があれば、進めていただきたいという希望です。

それから先ほども申し上げましたけども、高齢者対象の食に関する活動っていうのがかなり多いんですけども、最近、認知症の方たちが住み慣れた地域で、安心してその人らしく暮らすことができる地域づくりということに取り組んでいまして、その一環でチームオレンジっていうものを立ち上げて、高齢者の居場所づくりに取り組んで、今活動しています。取組はまだ2、3回で、でも村民、高齢者からは結構期待されてはいますけども、高齢者だけじゃなく子どもさんたち、若い人たちにももう少し集まれるような、そういう居場所っていうのも、だんだんに食を通して作っていききたいなと思っています。

小さな村ですので、昔から農業、林業で生活してきている村ですので、今よりももっと、農業とか林業がもう少し盛り上がっていきけるような支援があれば、もっといいのかなと考えております。皆様からお力をいただきながら、人口減少対策としてですね、若者たちがいっぱい集まって、もっと盛んになっていければなという期待を込めていますので、よろしくお願いしたいと思います。

【米内局長】

ありがとうございました。若者の定着のための企業、それにつきましては、例えば九戸村だけじゃなくても、軽米の町長さんとお話したとき、軽米に住んでもらえれば、そこから二戸市や八戸市に通勤してもらえれば、住環境と職場は別の市町村でもいいんだけど、地元に住んでもらえるのがコツみたいなお話もされてて、九戸村に企業が誘致されなくても、例えば二戸市とか八戸市、久慈市の企業で働ければ、住むのは九戸村でもいいのかなというのがありまして、軽米だと風力とか太陽光とか、電力の地産地消をしていて、例えばそこに住めば光熱水費は比較的是安いとか、そういうメリットを出して、定住につなげたい、働く場所は町外でもいいというようなお話もされてました。地域全体で企業、働く場所は考えてらっしゃるかなと思っております。

それから空き家対策は資料1の17ページにございます。やはりいろいろお声があり、課題として考えておりまして、地域おこし協力隊とか、地元縁がなくとも九戸村でいろんなことをしたいという方もいらっしゃるんですが、住むところがないという問題がありまして、住宅問題の対策を講じる市町村への支援が、新規事業で今年度から組み込まれていまして、普代村と軽米町と九戸村の空き家対策を中心とした住宅問題の対策をどう支援していくかという取組が始まっていますので、その住環境を整えば、地域おこし協力隊の人などが住んで、いろんなことをやってみたいという要望にも、上手く対応できると考えております。

それから、農林業の対策は、担い手の対策、それから所得向上ということで、比較的林業は、この地域は辞めるパターンの方が多いですけども、比較的新規で若い人が参入してくる

数も、他地域に比べると多いというのもございますので、あとはやはり今の若い人に合った働き方、スマート農業の機械を上手く使って効率良くやるというところを支援しておりますし、担い手対策ということで、新規に農業や林業に従事するという方のサポートに取り組んでいるところでございます。この地域も温暖化で、今までは関東の方でピーマンなどを作っていたけど温暖化で良い商品ができなくなって、そういうビジネスチャンスがこちらにきて、新たに就農してピーマンを作る。温暖化の影響で今までの産地が作れなくなってきているというのに比べると、この東北地方、北東北がまだまだそういうものを、新たなサービスとして形成できるというような話もございますので、技術的な専門家もいますので、経営も含めて、やる気のある皆さんの支援をしておりますし、これからもやっていかなければいけないなと思っております。

それでは続きまして佐々木様からお願いいたします。

【佐々木構成員】

私は久慈市にいます株式会社ヤマイチの佐々木と申します。今回から参加をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

弊社は建設資材の商社ということで、私はその中で約 20 年、再生可能エネルギーの仕事に携わってまいりましたので、まずは再エネいうところを、若干逸れるかもしれませんが、そこに特化して、お答えをさせていただければと思っております。

その前に、先ほどから内容を聞かせていただきまして、所感というところを一点だけ述べさせていただきますと、岩本さんが仰られたところ、まさにその通りだと思っております。まずは雇用を確保し、経済をしっかりと動かしていく事がこの圏域では一番大事なところなのかなと思っております。やはりやりたい仕事がない、安定した所得がない。それで若者や女性が県外に流れてしまって、一番の課題だと思っておりますので、各種施策が進められていけば、より地域の皆さんに寄り添った方針になってくるのかなと思います。

あとは、資料に沿ってお話をさせていただくと、まず県北の強みについては、再生可能エネルギーが地産地消できるとともに、地域内で供給する。地域経済を回していく中で、脱炭素社会の実現ということがこの岩手県の強みであると私は考えております。その一例いたしましては、私が住む久慈市では、現在国が推進しております脱炭素先行地域事業というのを行っております。各種エネルギーを地域内で消費することで、久慈市であったり、特に山形町でCO₂の排出をゼロとするという、地産地消の事業を進めているところでございます。県北地域というのは、海と山と、あと平地ということで、それぞれにポテンシャルを持った、全国でも有数の再生可能エネルギーに適した地域であると自負しております。その中で、現在久慈市沖で洋上風力、最大で原子力発電所の1基ぐらいということで、非常に大きな、日本でもこれが決まりますと、1番、2番ぐらいになるというビッグプロジェクトが、今後10年の目標として進行しているところでございます。その他にも、軽米町の大規模太陽光発電、また、二戸市では折爪岳の風力発電など、各種再エネ関連設備がある。そういつ

た中で、持続可能性の確保といったところをどのように進めていくか、これからお話をさせていただければと思っております。

今、固定買取制度というのが、太陽光や風力発電ではあるんですけども、それがこれから10年、15年で終了してまいります。そういった中で、今までは都市部に電気を流している状態が続いておりましたが、いかにこの地域内で消費できるか。そして地域内で消費したものをしっかりと経済に回していくか、そういったスキームづくりが、持続可能性確保の最重要課題になっているのではないかなと思っております。

そんな中で私が今注目しているものがありまして、国で主導しているデータセンターというのがございます。これをぜひとも県北地域で率先して誘致していただく、そういったところが、若者・女性に選ばれる地域となるために必要な取組、人口減少対策につながってくるのではないかなと考えている次第でございます。このデータセンターの件ってところだけ、もうちょっとだけ具体的に述べさせていただきますと、今後、劇的にAI需要というのが伸びてまいります。それには本当に非常に莫大な電気が必要となってくるんですが、その中で、世界のIT大手、アップルですとかグーグルとか、そういった会社さんっていうのは、再エネ100%でできるというのを必須項目として求めています。そういった中で、仮にデータセンターが誘致できると、久慈市ですと例えば洋上風力、二戸市ですと折爪岳の風力発電、あと軽米町ですと大規模太陽光発電、そういったものの地域内消費というのが可能となってまいります。また、世界的IT企業のデータセンターと銘打ちできますので、地域の課題として挙げられております女性が活躍する事務所、また若者が働く場所がないというところでのITの専門職であったり、先ほど拝見いたしましたけども、給与体系も都市部に比べると劣っている部分もありますので、そういったところも改善していくことが可能と思っております。さらには、データセンターを誘致いたしますと、毎年最大で数十億の固定資産というところも収入として入ってまいりますので、そういった税収を子育て支援とか、そういった枝葉のところというのも、経済を回すことでしっかりと拡充していくことができるんじゃないかなと思っております。現在、データセンターの誘致は青森や秋田でもすでに立候補しているところでございますので、ぜひとも県北地域で、洋上風力発電に今盛んに手を挙げておりますが、電気の地産地消というところをセットでやっていくスキームが、今後必要になってくるのかなと私は思っております。

ちょっと専門的な話になってしまったんですけども、このデータセンターの意見というところに関しましては、これからの2年ではもちろんできないと思うんですが、まずこの2年の中で、例えば勉強会での普及活動や推進協議会の設立とか、そういったところでやっていただければというのが私からの要望となります。

【米内局長】

ありがとうございました。再エネ関係については、管理主幹から説明をお願いします。

【阿部管理主幹】

総務課の阿部と申します。御質問ありがとうございます。

御指摘の通り、県北地域は地域資源の1つとして風というのが大きいと思うんですね。太陽光発電は国の政策転換もありまして、大規模のところはだんだん小さくなってきて、補助金もほぼ終了というところであります。これからは陸上や洋上を含めて風力をどう活かしていくかというところだと思います。民主党政権が震災後、FITという固定資産買取制度を始めて、相当再エネが伸びました。そのほとんどのビジネスモデルは、事業者が県外から来て、地域にある土地や風を使って発電をして、それが首都圏の大規模な需要先を想定されているという実態が多いと思います。この風を生かした発電をどうやって地域の方で回していくかということが大事だと思います。久慈市では発電事業者に対して1%の基金を求めているガイドラインを作っておりますし、軽米町でも、いわゆる農山漁村再エネ法を使って、地域に裨益する再エネというのをどんどん進めているところです。洋上風力も大規模な原発0.5基分から1基分という大きな出力が見込まれていますので、その出力した発電を単に大規模需要地の首都圏に送るだけでは、ある意味、植民地のような形になってしまいますので、そうではなくて、その電力をどう回すか。その時に課題になると思われておりますのが、送電網が弱いというところで、県北地域の課題となっております。送電網の整備については非常にコストがかかりますので、なかなか難しいところがあるんですが、その中で佐々木様が仰ったように、電力を使う工場やデータセンターを、需要地に近いところに誘致することで、送電網のコストも減ります。加えて、先ほど仰ったように、雇用や税収というところが非常に大きいと思いますので、空き校舎、小中学校が廃校となって空き校舎があります。校庭があります。体育館もまだ綺麗なまま残っています。そのぐらいの規模感でも、中規模のデータセンターが非常に有効に使える。また、冷涼な気候ですので、久慈をはじめとした県北地域、そういった形で再エネ資源を活かしつつ、課題である送電網のコスト負担も減り、地元の雇用の場を持たせるという意味では、御指摘のような取組は非常に重要だと思いますので、ぜひ、洋上風力は県庁と振興局でも今後進めていきますけれども、勉強会のようなもの進めていきたいと思いますので、引き続き御協力をよろしく願いいたします。

【米内局長】

それでは続きまして、新山様からお願いいたします。

【新山構成員】

野田村森林組合の新山と申します。

森林組合として林業に関して、県北地域は岩手県内でも非常に林業が活発な地域でありまして、ただいづれにしても、新採用の方はいるんですが、人材不足感は否めないというところで、資料の構成員の皆様から伺いたい事項の②と③に関わっているのかなと思います。定着率については、当組合では離職は特になく、そのまま仕事をしていただいているんですけ

ども、その中で単純に選ばれづらい。どうしても林業は外仕事というのもあるし、危ないし汚いんじゃないかというところがあるんですけど、本当に今は機械化されていて、防護服、ウェアとかヘルメット、そういう装備の方も非常にかっこいいものが出ていて、それも全て支給でやっておりますので、そのあたりをもう少し当組合として上手く発信できたらいいのかなとは思っております。

あとはどうして若者や女性が流出していくかっていうのを、後輩とか私より若い20歳くらいの子にいろいろ聞いてみると、やはり第一に出てくるのが仕事がないというところ。それが一番だということでした。遊ぶところがないとかそういった理由もあるにはあるんですけど、まずはやっぱり仕事、安定した仕事がないというところ。建設業さんなんかは変わってきたと思うんですけど、どうしても土曜日が仕事であったり、隔週であったり。あとは日給月給制という、安定はしていないというところになるのかなと。安定していないとどうしても家庭を持てない、子どもを持てないというところに関わってきてしまうかなと思っております。その月給制の転換についての何かしらの施策があってもいいのかなと思っております。岩手県の方でも助成金はあるんですけど、なかなか使いづらかったり、林業の方でも助成金はあるにはあるんですけど、新採用の方を月給制にするというもので、現在雇用している方を月給の方に転換するものについては特段助成がない状況でしたので、まず所得が第一なのかなと思います。

あとは、どうしても久慈地域は産婦人科がないということで、二戸や八戸の方に行く必要があるから子どもを持ちづらい。私自身子どもがいるんですけど、皮膚科も八戸まで行かないといけなくて仕事を休むこともあります。あと育休を取っている社員から話を聞くと、どうしても育休をとると年収が下がってしまうと。雇用保険の方から67%であったり、後半50%であったり、産んでほしいというのに産むと生活が苦しくなると話していました。本当は3人くらいほしいけど2人にしておこうかなという理由がそこにあるような話でした。あとは、パパ育休は初めて1名が取得したんですけど、本人や家族も非常に喜んでいたので、引き続きそういった手厚いところはやっていきたいなと思っております。

【米内局長】

ありがとうございました。給与支援につきましては、今いろいろ制度があって、使いづらさもあると思いますので、そこは使っていращやる方が、こうしてほしいというような御意見をいただければ見直しはかかってくると思います。今日は林務部長もおりましたので、個別にまた御相談していただければ、その声をつないでいって、制度の見直しもしていきたいと考えますので、よろしくお願いいたします。

また、県北振興と医師確保は岩手県の最重要課題なんですけども、なかなか増えないという現状がありまして、地域枠でお医者さんも増えているんですが分散されてしまって、診療科目によって人気に偏りもあるようですので、そこは当然我々も問題意識を持っていますし、市町村の要望もございますので、引き続き取り組んでいかなければならないと思ってお

ります。

それでは続きまして、蒔苗様からお願いいたします。

【蒔苗構成員】

皆さん、はじめまして。二戸ファッションセンターの蒔苗です。今回初めて参加しておりますので、移住してきた人間として感想を申し上げたいと思います。

まず、若者・女性に選ばれる地域づくりと人口減少対策は一体のものだと考えています。人口減少は基本的には止まらないだろうということは皆想像していることだと思いますし、人口減少が緩やかな地域に学ぶということが大事だと思います。過去も現在もこれからも、県も各自治体も様々な支援を実施してくれていて、それも良いことだと思うんですが、隣県や他地域でも同じような支援がもう行われていて、目新しさがなくなりつつあるように感じています。

また、病院の問題もありますが、田舎に定住するときに、一番は会社に行けと言われればそれが最終決断になりますが、他にメリットが1個あれば、定住に向けて考えていけるのかなと。例えば二戸でいうと、九戸もそうですけど、住宅問題。他県から人が来たり、新入社員が来たりといったとき、やっぱり住むところがないという問題がかなりありまして、きれいなところだと家賃が高すぎる。盛岡や八戸の方が安いとなれば、そっちの方に行くのは当たり前前の感覚だと思います。支援はこれからも進んでいくと思いますが、産学官が連携しながらアイデアを出していく必要があるのではないかと感じています。

地域の持続可能性確保という観点では、先ほど再生可能エネルギーのお話もありましたが、トヨタが実証実験を行っている地域がありますけども、あれくらい特化して、県北地域が全国に先駆けてやってみてもいいんじゃないかなと思います。予算規模の課題もあると思うので簡単には言えないんですが、特色がない地域になりつつありますので、新たな魅力を見つけていくのもありだと思いますし、さらに情報発信についてですが、SNSがあまりにも全盛期すぎて、自分が欲しい情報しか皆さん見ないんです。どう情報発信しても興味がないと見ない。だから各地域でイベントがあってもわからない。「そういうイベントがあったなら行きたかった」という結果論になってしまう。それを踏まえて、産学官が連携しながら、どういう情報発信が一番効果的になるのか、そこに予算を投入してもいいんじゃないかなと。これは一次産業、二次産業、三次産業のいずれにも共通することで、林業のお話にもありましたが、まずは情報発信を重点的に行うことが重要だと思います。

今後重点的に伸ばしていくべきこととしては、エネルギー分野もありますが、やはり安心で安全に住めるということが一番大事な課題だと思います。災害だったり医療だったり、子どもたちが安心して通学できる環境づくり、鳥獣対策など、そういった部分が強みとして、土台部分として活かしていければいいなと思いますし、企業としても協力していきたいと思っています。

【米内局長】

ありがとうございました。住宅問題について御指摘いただきましたが、盛岡の方が家賃が安いとか、私どももなかなか気付きにくかったところかもしれません。今年は空き家対策に取り組んでいきますので、いただいた御意見を参考にしながら進めていきたいと思います。

また、トヨタの事例についてのお話もいただきました。思い切った施策を打っていないと厳しいとは思いますが、県北地域としてどのような特色を打ち出せるのかについて、今後も知恵を出しながら考えていきたいと思っています。

SNSによる情報発信についてですが、県北広域振興局でも Instagram などでも情報発信を行っております。本日お配りしている資料にも関連情報を掲載しておりますので、ぜひ御覧いただいて、フォローしていただければと思います。いろんな情報を発信するにはしておりますので、御覧いただいたうえで、「こうした方がよい」「こういう情報が欲しい」といった御意見をいただければ、改善していきたいと思っています。情報発信の仕方を産学官でという御意見もございましたが、情報が溢れている時代ですので、地域や若者に貢献できるような対応が必要だと思います。今後も他の事例などを参考としながら進めていきたいと思っています。

それでは続きまして舩森様、お願いいたします。

【舩森構成員】

南侍浜漁業研究会の舩森です。私からは水産業の関係についてお話ししたいと思います。

まず、これまで皆さんからもお話があったとおり、人口減少が一番の課題となっていますが、水産業においても、漁業者の高齢化や担い手不足が一番の問題であります。水産業については主要魚種の不漁や海洋環境の変化で獲れるものが獲れなくなっているような感じで、大変厳しい状況が続いております。その中でも、海洋環境の変化について、自分は採介藻漁業というのをやっておりますけれども、水温の関係で海藻が生えてこなくて、それを餌にするウニやアワビの不漁にもつながっている。ウニは単価でカバーできているけども、アワビは今までで最低くらいの単価で、漁業者は苦しいと思います。

今、私たちは変化に対して、「今年も獲れないね」というのではなく、変化に対応していくという部分で、畜養に取り組んでいるところですけども、県の事業として3年間やらせてもらって、それ以降は自分たちでやりくりをして今年で事業は4年目なんですけど、朝獲れたものを新幹線で関東のスーパーに売っているというような活動をしています。できないのではなく、こういう風にやってみると、一歩前に出て取り組んでいるんですけど、どうしても限界がありまして、自分たちができるところまではやりたいと思っているんですけど、やはり一歩前に出たいというときには、県の後押しがほしいなというところです。今、水産部と一緒に海業に取り組んでいますが、漁業者にとっては自分たちが今までやったことのないことも経験していて、取組に関する情報発信は自分たちでできなくもないですが、そういう専門的なことはカバーしてもらいつつ、一緒に取り組んでいければと思います。かつ、水揚げ

が少なくなっている部分については、海業を収入につなげていければというところもあるので、今後も進めていかなければと思います。

さらに、人口減少で人が外に出ていくという部分については、実際に今取引している企業の担当者が久慈翔北高校の出身で、外に出て戻ってきてもらいたい、それもわかるんですけども、逆に全国に散らばった久慈出身者が久慈をつないでくれるような役割、今の取引先の人がまさにそのような感じかなと思っていて、やはり久慈のことをよくわかっているのだから、売る側としても安心だし、本人も言っていたんですが、自分の地元だと熱の入りが違うと。せっかく外に出たら、いろんなところでつないでもらえたらと思っています。

【米内局長】

ありがとうございました。最後にお話しいただいた、全国にいる久慈地域出身者とのネットワークというのは必要だと思います。ただ体系的になっているかというところではなくて、たまたま一箇所の伝手から広がっていったりというのが現状だと思います。

【伊五澤副局長】

地域出身者とのつながりは大事だと私も思っていて、過去に東京事務所で働いていたんですけども、やはり頼りになるのは岩手県ゆかりの人なんですよ。企業を経営している人にしろ、若者にしろ、そういう伝手を頼っているいろんな商談会や取引にもつながっていただきますので、全国に散らばった久慈ゆかりの人をつなぐ、実際この仕組みをどう作ったらいいかということについては、考えていきたいと思っています。

【佐藤水産部長】

水産部の佐藤です。海業については、舩森さんの仰るとおり、SNS等の発信能力という部分で、行政でも足りない部分があるかと思っています。そういった部分に関しては、インフルエンサーを招聘してアドバイスをもらったりするなどして、あとは洋野町観光協会の外和さんとも連携しながら、主要魚種がとれない中での新しい収入源としても進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

【米内局長】

今、局内でいろいろ話しているのは、海業もありますし、最近は森業、里業、もともとグリーンツーリズムもありますので、それらを横串しで、例えば今日は波が荒くてできないというときもあると思いますから、あとは周遊できるように農村の方にも行ってもらって、午前中は海に行って、午後は山の方、農業とか、他のコンテンツも組み合わせていろんな選択肢を作った方が、深い取組ができるなど局内で考えています。例えば漁師は海の方が得意なんですけど、接客やコースを作るのは観光協会や旅行会社でアレンジしてもらって、あとは海以外の山、農業も含めていろいろなパターンを作っていければと議論はしているところ

です。

それでは続きまして、村上様からお願いいたします。

【村上構成員】

洋野町社会福祉協議会の村上と申します。今年度から構成員となりました。よろしくお願いいたします。

最初に職員の方から説明があった中で、そのとおりだなと思ったのが、若者の声を大人が聞くこと。私自身、大野の生活支援コーディネーターをしているんですけど、地域課題を地域の方から伺って、それをどうやっていくかというのを考えていて、同じようなことなのかなと思いました。地域のボランティア団体の代表の方からのお話であったのが、三世代交流をやってみて、そこには当然お子さんも来るわけなんですけど、反省会をするときに親世代の意見を聞くことができなくて、上の世代の人たちが「それはいいんだ」とか、「こうやっていくんだ」とか言っていて、でもその方は、次からはもう来てもらえないんじゃないかと危機感を持って、2回目開催したときに親世代の意見を聞くように促したら、3回目には積極的に参加してもらえるようになったので、話を聞くことってすごく大事だと仰っていたので、お話させていただきました。

令和8年度の施策推進方針についてですが、これはあくまでも個人的な意見としてお聞きいただきたいのですが、ジェンダーギャップ等の解消とあるんですけども、昔と比べてかなり良くなったんじゃないかなというのが私の印象です。また女性の活躍等の課題について、敢えてジェンダーと言うことが私にとっては差別的に感じるときが普段からあって、私自身はあまりそういうことを考えて仕事をしたことがありません。また、女性の活躍の場と言われていますが、自分は頑張りたいという上昇志向のある方はできているんじゃないかなと感じています。最近テレビのインタビューで大学生の子が、「女性の活躍の場と言っているけど、自分は大学を卒業したら働くけど、結婚したら仕事を辞めて専業主婦になりたい。子育ても家事も仕事も全部自分でできると思わないし、やりたくない。贅沢かもしれないけども。」と話していたのが印象的でした。そういう書き込みもSNSでよく見かけます。自分の娘は今年新社会人になって、子育ては一段落ついたかなと思っていますが、正直子育てと仕事の両立は大変だったし、辛いと感じることもたくさんあって、生活のために働いていたのが大きいと思っています。今の職場は私にとっては十分働きやすい職場で、でも他業界のことはよくわからないので、本当の意味で何が必要か、可視化するのは良いと思いました。

あとは空き家に関して、生活支援コーディネーターとして、地域の課題について地域の方から御意見を伺ったときに、地域の集会所が老朽化して集まる場所がなくなってしまって、離れたところに地域のセンターはあるけど、歩いていける範囲にあればいいなという話が出たことがありました。難しいかもしれないですが、空き家をそれらに利用できる仕組みがあればいいなと思っています。

次に、今後重点的に伸ばすべき県北地域の強みについてですが、私は食べるのが好きな

ので、「食」は大きな強みだと思っています。都会の高そうなお店で食べても、やっぱり家で食べるご飯の方が美味しいなと感ずることがあります。あと食と関連して観光もですが、地元にいると地域の良さが当たり前すぎて気付けていないところがあるので、地元以外の人を入れて検討するのも良いのかなと思います。

それから、アパレルについて、一関で東京ガールズコレクションをやっていて、仕組みがわからないんですけど、岩手県内で持ち回りでできれば、地元の子たちも参加できるし、先ほど新山さんからお話のあったカッコいい作業服も、そういった場で仕事のPRをするのも良いのかなと思いました。

あと、若者・女性に選ばれる地域、人口減少対策、地域の持続可能性については、多くの皆さんが仰っているとおり、やはり雇用と所得が重要だと思います。仕事がないと地元に残れない、人口も減っていく、地域の持続も難しくなるのかなと考えます。若者は進学や就職で地元を離れる子が多いし、正直なところ親としては子どもに好きなことを自由にやってほしいという願ひがあるので、離れることも仕方がないことだと思っているんですけども、嘆いていても仕方がないので、例えば転出するときに、みんなに簡単なふるさとPR大使のようなものになってもらうのはどうかと考えました。よく芸能人にふるさと大使を委嘱していて、そこまでの重荷を担わせるわけではないですが、自分も学生ときは親が送ってくれた特産物を学校の子に紹介して一緒に食べて、うちの地区ってこうなんだよと、地域の良さについて自然に話していたんですが、今思えばPRしていたんだと思います。地元を離れてからもみんな地元のことを思っているし、自然に地元のことを話すものだと考えています。敢えて大使に任命することで、愛着も湧くのではと考えています。

収入や定着という部分では、相談業務をやっている中で、他の地区から移住してきた方で、「収入が少なくて子どもを養っていけなくて、地元に戻りたいと思っている」という相談を受けたことがあって、せっかく来てくれたのにと思ったことがありました。

あと、去年初めて御所野遺跡に行って、リンクウォークの写真も見せてもらったんですけど、すごく良いところだなと思いました。説明してくれた方もすごく良くて勉強になったし楽しかったんですね。また行きたいと思っているので、今でもPRしていると思いますが、ぜひPRした方がよいと思いました。

「白銀のひかり」も知らなくて、地域に興味を持たなければと反省しています。あと、強みもたくさんあるんだなと資料を見て思っています。

【米内局長】

ありがとうございました。まず、ジェンダーギャップに関するお話ですが、村上様の個人的なお考えもあると思いますが、世の中的にはまだまだギャップがあると言われていて、それが課題だということで我々も取り組んでいますけども、業界ごとにもまた濃淡があつて違いがあると思いますので、可視化していくところを今年度は取り組んでいきたいと思っています。空き家対策についても、いただいた御意見を念頭に置いて、取組を進めていきたいと

思います。食や観光についても、いつも見ているとこんなもんかと思ってしまうものですが、外の人にとってはすごく価値のあるものだったりしますので、その辺りは外部の人も含めて、磨き上げていきたいと思います。

【伊五澤副局長】

東京ガールズコレクションは一関で3回ほどやったんですけども、聞くところによると、地元企業がスポンサーとなって、それを元手に若者に地元を愛してもらおうということで進んだ企画だと思っています。ただ、今年はどうやっていないんですけども、なんでやらなくなったのか聞いたところ、地元の縫製業者への広がりを作れなかったと。縫製業者が作る服はすごく良い服で値段も良くて、要は若者向けの服ではなくて、その辺の広がりや上手いかなかったようです。地元のアパレル事業者はどうメリットを出せるかというところが難しかったのかなと思います。

あとは良い作業服を作るというアイデア、私も10年ほど前に考えたことがありまして、農業ユニフォームというものを地元の若手農業者の協力を得ながら作ったことがあります。結構良いものができたと思っていますが、ただ数量を作らないと値段が高くて、ロットが必要なので広がりや作れなかったという反省点がありますが、着眼点は良いかなと今でも思っています。

【米内局長】

ふるさとPR大使は面白いアイデアだと思いますので、参考にして、市町村にも使ってもらえれば一番良いかなと思います。白銀のひかりの収穫量は今年は増えると思いますので、秋にぜひ新米を食べていただければと思います。デザインがヘラルボニーで、一度食べていただいて、周りの皆さんにもPRしていただければと思います。

ありがとうございました。皆様から一通り御発言いただきまして、今までの御発言を踏まえて、改めて御発言がありましたらお願いしたいと思います。振興局の施策に限らずこの際振興局に伝えたいことですか、全体を通しての御意見でも構いませんので、改めての御意見がございましたら、挙手でお願いしたいと思います。

皆様それぞれ、振興局とお付き合いしている部署があると思いますので、ここで言い足りなかったことは、その部署にお伝えいただければ、施策に反映させていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは大変貴重な御意見をいただきまして、ありがとうございました。いただいた御意見につきましては、今、次期地域振興プランの策定を進めておりますので、その参考とさせていただきます。今後とも御指導、御助言を賜りますよう引き続きよろしくお願いいたします。それでは進行を事務局にお返しします。

4 その他

【高橋副局長】

それでは最後に次第の4その他でございますが、皆様から何かございますでしょうか。

【米内局長】

先ほど途中でお話しましたが、県北局のSNSもございますので、事前・事後含め対外的な取組はお知らせもしておりますので、ぜひフォローしていただければと思いますし、それについての御意見もSNSを通じていただければ改善していきたいと思いますので、ぜひ周りの方にもPRしていただいて、フォロワーを増やしていくことが大事だと思っていますので、情報の発信も頻繁に更新しないと見ていただけませんので、よろしくお願いいたします。

5 閉会

【高橋副局長】

それでは大変長時間ありがとうございました。以上をもちまして、本日の会議を終了させていただきます。本日の会議のみならず、日々、振興局といろいろとお付き合いさせていただいている中でも、御意見など頂戴できればと思いますので、よろしくお願いいたします。

次の開催につきましては、二戸地区におきまして、11月下旬から12月上旬頃の開催を予定しております。改めまして、皆様と日程調整など御相談をさせていただきたいと思えます。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

また、御出席いただいた皆様には、後日、お礼の品をお送りさせていただきます。

それでは本日はお忙しい中大変ありがとうございました。